



有限会社 田島製作所

# エコアクション 21 環境活動レポート

2017年1月～12月の活動報告

2018年3月30日

(有)田島製作所

有限会社 田島製作所は、山形県を代表する蔵王連峰の麓、上山市新北浦工業団地に位置し、金属プレス、金型設計・製作及び金属プレス部品の加工・製作を行っています。

自然環境に恵まれた当地への本社・工場移転に際しては、「省エネルギー計画書」の審査を経た建造物を構築いたしました。又、設備及び材料においても可能な限り環境負荷の少ないものを使用するように配慮しています。

日増しに地球環境の悪化が伝えられる中、次世代のためにも持続可能な環境作りを今後とも続けていきたいと思っております。

## I. 組織の概要

- ①事業所名 : 有限会社 田島製作所
- ②代表者 : 代表取締役 田島 誠一
- ③所在地 : 〒990-3100 山形県上山市新北浦 2-2
- ④TEL : 023-672-1455
- ⑤FAX : 023-672-1450
- ⑥E-mail : [tjm@pressya.com](mailto:tjm@pressya.com)
- ⑦事業の概要 : 金属プレス、金型設計・製作及び金属プレス部品の加工・製作
- ⑧敷地面積 : 3,960 m<sup>2</sup> 延べ床面積 : 2,970 m<sup>2</sup>
- ⑨従業員数 : 36人
- ⑩環境管理責任者 : 海谷 和徳

## II. 環境方針

### 環境方針

田島製作所は、地球に存在する企業であることを自覚し、省エネ、省資源を意識した生産活動の中で地球と社会に資産を残す目的と会社の永遠の存続を意識し、積極的に環境の保全に努めます。

1. 二酸化炭素排出量、廃棄物排出量及び総排水量及び化学物質使用量削減を継続的に実施し、且つ、事業活動で生ずる環境負荷の削減とグリーン購入を推進します。
2. 環境関連の法規制等を遵守し、環境保全に努めます。
3. 環境保全の目的・目標を定め、さらなる向上に努めます。
4. この環境方針を全従業員に周知徹底し、環境に対する認識度を高め、実のある環境活動を推進します。
5. この環境方針を広く内外に公開し、取り組み経過等を環境活動レポートで適宜公表します。

平成 23 年 1 月 1 日

有限会社 田島製作所

代表取締役 田島 誠一

### Ⅲ. 環境目標

#### ①中長期目標

活動項目	基準年実績	2015～2017 年度目標
二酸化炭素排出量の削減	222,329Kg-CO2	基準年（2014）比 1%維持
総排水量の削減	559m3	基準年（2014）比 1%維持
廃棄物排出量の削減	12,027Kg	基準年（2014）比 1%維持
グリーン購入	39.98%	基準年（2014）比 1%維持
化学物質使用量の削減	292Kg	基準年（2014）比 1%維持
スクラップ（歩留率）	32.31%	基準年（2014）比 1%維持

#### ②単年度（2017 年度）環境目標

活動項目	目標値
二酸化炭素排出量	222,329Kg-CO2（基準年比 1%維持）
総排水量	559m3（基準年比 1%維持）
廃棄物排出量	12,027Kg（基準年比 1%維持）
グリーン購入	39.98%（基準年比 1%維持）
化学物質使用量	292Kg（基準年比 1%維持）
スクラップ（歩留率）	32.31%（基準年比 1%維持）

### Ⅳ. 環境活動計画

活動項目	責任者	取組内容
電力使用量の削減	小山浩志	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間・週末のブレーカー遮断</li> <li>・機械エアフィルター掃除</li> <li>・LED へ交換</li> <li>・コンプレッサーのフィルター管理</li> </ul>
灯油使用量の削減	船橋有喜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボイラー用灯油使用量調査</li> </ul>
車両燃料使用の削減	船橋有喜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコドライブ教育の実施</li> <li>・燃費のチェックと管理</li> </ul>
水道使用量の削減	船橋有喜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散水の禁止</li> <li>・センサー式自動水洗の流量を絞る</li> </ul>
廃棄物排出量の削減	木村博之	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料搬入用木製パレットの返却再利用</li> <li>・加工油の減量化及び再利用</li> <li>・脱脂剤の長期利用の検討</li> </ul>
グリーン購入	井上法子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・備品購入時のエコマーク確認</li> <li>・非グリーン製品使用の管理</li> </ul>
化学物質使用量の削減	木村博之	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用量、保管量の記録管理</li> </ul>
スクラップ（歩留率）の削減	渡辺 亨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不良製品の削減</li> <li>・端材等の利用を検討する</li> </ul>

(有)田島製作所

## V. 環境活動計画の取組結果と評価、次年度の取組内容

活動項目	目標	実績	評価
電力使用量の削減 (KW/h)	364,468	362,303	・生産量は増えたが、電気の使用量はあまり変動がない。固定費になっている
灯油使用量の削減 (L)	8,282	9,602	・洗浄を必要とする部品は減ったが、洗浄装置を止める日は減ってしまった。
車両燃料使用の削減 (L)	11,467	12,353	・仕事量が増え車の利用頻度が上がったと思われる。
廃棄物排出量の削減 (Kg)	11,906	11,562	・生産量と比例して、梱包材が増えた。客先からの製品のキズに対する認識が高く、梱包仕様は変えられない
総排水量の削減 (m3)	553	906	・売上は増えたが水の使用量が異常だ。点検が必要と思われる。
グリーン購入 (%)	39.58	33.62	・グリーンマークの入った商品が増えているようだが利用できていない。
化学物質使用量の削減 (Kg)	290	224	・生産量に左右される。科学物質を使用する製品の生産が減った。
スクラップ (歩留率) (%)	31.99	30.11	・複合機での材料仕様に課題がある。一手間かけて材料の歩留まりを上げる
二酸化炭素排出量の削減 (Kg-CO2) (電力、灯油、車両燃料の使用合計で換算)	222,392	262,647	・生産量の増加と、固定化している電力使用量から、二酸化炭素が減らないことが見えてきた。ソーラーパネルの設置を決めた。

\*購入電力の排出係数は、2015年度東北電力0.573を使用しています。

### ◎次年度の取組内容

毎年、生産量と生産額の変化が大きいため、エコアクション活動の成果が見えない。それを解消するために、もう一つのものさしを付けて観る。CO2排出量を売上で割ってみた

	売上 (万円)	CO2 排出量	CO2/売上
2014年	434189	222,329	0.51
2015年	499025	311,258	0.62
2016年	346583	238,588	0.69
2017年	476215	276,654	0.58

昨年と割算の分子と分母を変えてみた。2017年は1円の売上を0.58KgのCO2で生産したことになる。製品単価の下落と材料、輸送費の値上げから調査は必要だが、指標として使える気がする。

◎環境負荷の推移

環境負荷項目	2015年度	2016年度	2017年度
二酸化炭素排出量 (Kg・CO2)	311,258	238,588	276,654
廃棄物排出量 (Kg)	9,301	9,528	11,562
総排水量 (m3)	665	750	906

VI. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

2018年3月30日 海谷環境管理責任者がチェック表に基づき遵守状況をチェックして問題がないことを確認しました。当社は、農村地帯に立地する事業所として今後とも排出水の水管理、浄化対策を徹底して行い、地域に決して迷惑をかけないように努力いたします。よって当社は、環境法規等の違反、訴訟はありません。尚、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

◎当社に該当する主な環境関連法規

廃棄物の処理及び清掃に関する法律	浄化槽法
騒音規制法	振動規制法
化学物質排出把握促進法	消防法

VII. 代表者による全体評価と見直しの結果

見直し会議実施日：2018年1月15日（金）

会議参加者：田島社長、海谷環境管理責任者、事務局田島拓弥 環境リーダー3名

・報告事項

- ①環境目標達成状況      ②環境活動計画の実施運用結果  
③環境関連法規等の遵守状況      ④苦情・要望の有無

・社長からの評価コメントと指示事項

- ① 2017年の実績管理表より電力使用量の増加はレーザーを導入したことよりもエアコンの稼働率が上がってことによるものであると推測。  
② 今年の2月に太陽光パネルを設置、すぐの稼働とはいかないがこれにより電気料金の削減を期待する。  
③ 歩留まり率では全体としては向上したように見られるが、プレス加工による材料余りに比べて、レーザー加工による材料余りの量が多く、いまいち削減にはつながっていなかった。